



HOKKAIDO UNIVERSITY

Title	酔いどれニッポン
Author(s)	濱田, 康行
Description	巻頭言
Citation	しんくみ, 56(3), 2-3
Issue Date	2009-03-10
Doc URL	https://hdl.handle.net/2115/38107
Type	article
File Information	hamada-3.pdf



政治家が酔っ払って記者会見し、その映像が世界中に配信された。山一証券の破綻のとき、“社員は悪くない”と泣いた社長の姿も世界に配信され、こちらは有名な経済雑誌のカバーにもなった。しかし後者には同情も集まった。セリフも間違っていなかった。それに比べて今回ののはチョットひどいな。

同じ日に日本の 2008 年 10-12 月の GDP 成長率が発表され、年率換算 12%超マイナスという驚くべき数字が公表された。世界同時不況で、どこの国もマイナス成長だが日本は際立って悪い。問題の発端はアメリカにあるのだから、いくらアメリカ向け輸出が高いからといって、日本のマイナスがより大きいのはどうした事か。

日本は経済もダメ、政治もダメというイメージがたった一日で世界に配信された。その影響だろうか、為替相場は翌日にはかなり円安に振れた。2008 年 9 月以来、世界不況が深化するたびに円高が進んだ。これも奇妙な現象だ。通貨の価値は国の値段とすれば、この国のどこを見たって高値を呼ぶ要素はないからだ。

新聞をみると企業のリストラが毎日のように発表されている。〇×工場閉鎖、〇×万人雇用調整といった記事に私達はかなり鈍感になってしまったが、失業率の上昇という資本主義社会でも最も恐ろしい病が勢いを増していることに敏感であるべきだ。経営者も受難の時代だが同情してもらえない面もある。経済全体が順調な折に、あるひとつの会社だけが大量リストラを発表したら、世間から非難されるのは必定。経営者は無能の誹りを免れない。しかし、今なら、すべてはまかり通る。少々のリストラ・解雇なら新聞紙面にさえ出てこない。致し方ないリストラに混ざって便乗型が横行している。そうなるのは資本主義の倫理が全体的に低下しているからだだろう。資本主義は利益追求を表看板とするが、やってはいけない事のリストラを暗示的に持っていたように思う。それを私は資本の倫理と表現している。この倫理は、利潤への欲望（稼ぎたい・儲けたい）と一緒に経営者の精神の核となる。だから、資本家・経営者は悪魔ではなく、逆に人類愛に溢れた人格者でもあったのである。後者は、資本主義を悪魔の社会と決めつけてしまった人々には視野に入らなくなってしまったに違いない。

不況だけなら、循環性であるのだから、いつかは好況になる。株価も会社が倒産しない限りゼロになることはない。日本中の会社が全部倒産ということもない。マイナスの GDP に合わせて人口が減っている訳ではない。人々は、ある生活水準を前提に、一定の消費は必ずするので商品が長期に亘ってまったく売れないという事もない。買い控えても、いつかは市場に現れる。永久に使える商品は少ないのだ。

しかし倫理がゼロになってしまうとその回復には時間がかかる。倫理を創造するのは教育だが、それが成果を現すには長い時間が必要となる。困ったことに日本の学校はあまりアテにならない。特にビジネスマンの倫理はどこでも教えられていない。それはビジネス

の現場で先輩から後輩に、あるいは上司から部下に伝授されてきた。しかし、最近ではうまくいかなくなった。職場は様々な意味で分断されている。経営者は利益を考え働く人々を顧みない。まさに法律の言葉通り使用人扱いだ。さらに使用人が、正規と非正規に分かれる。世代が違くと職場での繋がりはできにくい。アフターファイブはそれぞれプライバシーがある。だから倫理を取り戻すことは一朝一夕ではできない。

政治の世界にはしばらく期待できないようだ。大臣の映像を見ていてそう思った人は多いだろう。本当は政治の課題はたくさんあるのだけど、ふざけた人にやってもらうくらいなら、課題を残しておいた方がむしろ被害は少ない。酔っぱらいの議員さんを選んだのは私達だ。二世議員が多すぎるし、選挙で政策が問われる事もない。政治家になるのに必要なものが金と知名度となれば普通の人は選挙に出ない。

アメリカのある小さな町を訪ねて驚いたことがある。この町には専門の町議会議員はほとんどいない。報酬が極めて低いので皆さんメインの仕事を持っている。昼はそれぞれに働いて、夕方、議会が始まる。専門だったら落選は失業と同じになるから、どうしても選挙民に媚びへつらう。また議員になったら元も取りたくなるし次回も当選したい。

では倫理は誰に期待したらよいのか。資本主義に欠けがちな諸要素を補うのが協同組織である。倫理しかり、そして人々の絆もしかり。利潤というリアルな目的と比べると抽象的で影が薄いのだが、これらを欠いた社会は住みにくい。

いつも繰り返しているが、私達協同組織の船も資本主義の海に浮いている。そして海の上の生存競争はなかなか厳しい。競争に耐え、勝ち抜き、かつ上記の目的を守る。酔っ払った日本経済にあって正気の領域を守る。難しいけどやり甲斐はある。